

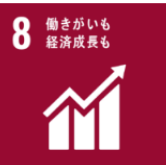
研修員's VOICE

Vol. 32

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



出典: 外務省HP

ブラジルってどんな国？

南アメリカ大陸の約半分を占めるブラジルは、世界第5位の人口(約2億人)と国土面積(851万km²)を誇る、中南米最大の国です。1908年に日本から最初の移民がブラジルに渡り今年で112年、現在、世界最大の日系人居住地であり、約200万人の日系人がいると言われています。

私が住むアサイ市は、元々「旭居住区」と命名されましたが、戦争の影響で日本語が禁止され、ポルトガル語に近いアサイ (assai) 市となりました。ブラジルの中でも日系人が多い地域で、市の人口16,000人の20%が日系人です。2018年には、姫路城を手本にした日本風のお城「旭城」が完成、城内には移民史料館を併設、市のシンボルとして今後の観光客の増加が期待されています。



丹野さんのアイデアが基になった旭城

観光を通じた地域振興



弘法農場のグリーンツアー参加者

私はアサイ文化連合会の副会長として活動していますが、州の観光担当より、アサイ市の観光振興への協力を求められています。家族で営む「弘法農場」という農場では、収穫体験や収穫した食材を使った昼食提供、日本の歴史や文化の紹介を含むグリーンツアーを実施しています。旭城の開城後アサイ市を訪れる観光客は増えてきましたが、アサイ市には旭城以外の観光スポットがなく、観光客が市内に滞在する時間が短いため、地域振興に繋がっていないことが課題です。

沖縄の研修では、観光客のニーズに合わせた観光商品づくりや販売戦略を学び、空手や料理体験など弘法農場のツアーに活かせるアイデアをたくさん吸収できました。

地域ぐるみで成長を

中でも、民泊はとても良い体験でした。現在アサイ市にはホテルが1つしかなく、新しいホテルを建てるのは大変ですが、民泊はすぐに実現可能で、地域の人々みんなで取り組みます。将来的には、沖縄の平和通りのような、地域の人々がちよつとしたビジネスを展開できる場所を作りたいと考えています。

アサイの日系人社会には、過疎化や高齢化といった課題もあります。日系4世、5世の若い世代を連合会の活動に参加させるべくヨサコイやエイサーを取り入れる、弘法農場では観光客だけでなく、平日には地域の高齢者の受け入れを目的とした、観光×高齢者支援の商品開発など、帰国後は地域の成長に繋がる活動を普及していきたいと考えています。



むら咲き村でそば打ち体験をしました



空手会館で空手体験(左端が丹野さん)

氏名: Mr. TANNO Lauro Shoiti (丹野さん)

国名: ブラジル連邦共和国

コース名: 沖縄のツーリズム・ストラテジーコース

研修期間: 2020年1月13日 ~ 2020年2月29日

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。